



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東 大

上場会社名 味の素株式会社

コード番号 2802 URL <http://www.ajinomoto.com/ip/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 伊藤 雅俊

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長

(氏名) 小林 幸彦

TEL 03-5250-8161

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	890,692	△2.5	60,931	△8.9	65,766	△6.0	54,447	29.7
24年3月期第3四半期	913,936	△1.7	66,865	1.8	69,951	4.6	41,995	28.7

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 71,824百万円 (963.1%) 24年3月期第3四半期 6,756百万円 (△33.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	82.99	—
24年3月期第3四半期	61.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,042,716	659,857	58.5
24年3月期	1,097,057	650,159	55.2

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 610,276百万円 24年3月期 605,349百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
25年3月期	—	8.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,221,000	2.0	73,500	1.3	76,500	0.8	47,000	12.6	72.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) カルピス株式会社  
(注) 詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注) 詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無  
(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規制」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	678,980,654 株	24年3月期	678,980,654 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	45,720,592 株	24年3月期	2,298,309 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	656,072,344 株	24年3月期3Q	682,842,915 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P4. 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は平成25年1月31日(木)に当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(5) セグメント情報等 .....	10
(6) 企業結合等関係 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日）における世界経済は、欧州債務危機による金融市場の不安、中国経済の成長率の鈍化等を背景に、全体として減速感が広がっており、弱い回復となっております。

わが国経済は、東日本大震災の復興需要等に支えられ緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、世界経済の減速等により今後の景気回復は依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、緩やかなデフレの市況が続き、厳しい環境が続いております。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を232億円下回る8,906億円（前年同期比97.5%）となり、利益面では、営業利益は前年同期を59億円下回る609億円（前年同期比91.1%）、経常利益は前年同期を41億円下回る657億円（前年同期比94.0%）となりました。また、厚生年金基金の代行返上益277億円、カルピス株式会社（以下、カルピス社）株式売却益175億円を特別利益に、事業構造改革に伴い医薬品製造設備等の減損損失72億円を特別損失に計上しました。以上の結果、四半期純利益は前年同期を124億円上回る544億円（前年同期比129.7%）となりました。

## セグメント別の概況

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(億円)

	売上高	前期増減	前期比	営業利益	前期増減	前期比
国内食品	3,214	△181	94.7%	291	△21	93.3%
海外食品	1,753	26	101.5%	154	△25	85.7%
バイオ・ファイン	1,463	5	100.3%	113	19	120.9%
医薬	558	△51	91.5%	46	△23	66.1%
提携事業	1,380	△29	97.9%	12	△0	99.5%
その他	535	△1	99.8%	△8	△8	—
合計	8,906	△232	97.5%	609	△59	91.1%

(注) 1. 平成24年10月1日にカルピス社の株式を譲渡したことに伴い、当第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日～平成24年12月31日）から同社を連結の範囲から除外しております。当第2四半期連結累計期間の業績は国内食品事業セグメントに含まれております。

(注) 2. 国内外の食品加工業向け「アクティバ®」類、天然系調味料および冷凍食品は、国内食品事業に区分されております。

## (国内食品事業)

国内食品事業の売上高は、カルピス社製品の売上げが当第3四半期連結会計期間から外れたため、前年同期を181億円下回る3,214億円（前年同期比94.7%）となり、営業利益は、前年同期を21億円下回る291億円（前年同期比93.3%）となりました。

なお、カルピス社製品の影響を除くと、売上高は、調味料・加工食品や冷凍食品の売上げが伸びたことで、前年同期を66億円上回る2,621億円（前年同期比102.6%）となり、営業利益は、前第1四半期連結累計期間の販売費が震災の影響で抑えられていた反動があったものの、前年同期を32百万円上回る244億円（前年同期比100.1%）となりました。

## &lt;調味料・加工食品&gt;

家庭用調味料・加工食品につきましては、中華だし類、「Cook Do®」（クックドゥ）およびコンソメの売上げは前年同期を上回り、ケロッグ製品も堅調に推移しました。うま味調味料「味の素®」の売上げは前年同期を下回り、「ほんだし®」はやや下回りましたが、スープ類、マヨネーズ類は前年同期並みの実績を確保しました。

業務用調味料・加工食品につきましては、調味料の新たな用途の提案など販売促進活動が奏功し、また新製品の取り扱いが拡大したこと等により、売上げは堅調に推移しました。食品加工業向けの食感や物性を向上させる食品用酵素製剤「アクティバ®」類は、国内の顧客による新規の採用が増加したこともあり前年同期の売上げをやや上回り、天然系調味料も前年同期をわずかに上回りました。

<デリカ・ベーカリー>

弁当・惣菜等のデリカの売上げは堅調に推移し、ベーカリー製品の売上げは前年同期並みとなりました。

<冷凍食品>

家庭用は「プリプリのエビシューマイ」の売上げは前年同期をやや下回りましたが、「やわらか若鶏から揚げ」は前年同期並みの実績を確保し、製品改訂と連動して販売促進活動を強化した「ギョーザ」は大幅に売上げを伸ばしました。「エビ寄せフライ」等の自然解凍により食べることのできる弁当用商品の売上げは好調に推移し、「具だくさん五目炒飯」も順調に売上げを伸ばしました。業務用の売上げは前年同期並みとなりました。

<飲料>

当第2四半期連結累計期間までの飲料の売上げは堅調に推移しましたが、カルピス社株式譲渡に伴い、当第3四半期連結会計期間から同社製品の売上げが外れたため、前年同期を大きく下回りました。

(海外食品事業)

海外食品事業の売上高は、為替の影響を受けたものの、調味料や加工食品の売上げが伸び、前年同期を26億円上回る1,753億円（前年同期比101.5%）となりましたが、営業利益は、加工用うま味調味料の減収および為替の影響等により、前年同期を25億円下回る154億円（前年同期比85.7%）となりました。

<調味料>

アジアでは、為替の影響を受けたものの、「味の素®」および風味調味料の現地通貨ベースでの販売金額が伸長したため、売上げは順調に推移しました。米州では、北米・南米ともに現地通貨ベースでの販売金額が伸長しましたが、南米における家庭用風味調味料等は為替の影響を受け、全体としては前年同期の売上げを下回りました。欧州・アフリカでは、西アフリカ諸国における「味の素®」の売上げは前年同期をわずかに下回ったものの、全体として売上げは前年同期を上回りました。

<加工食品>

アジアでは、粉末飲料「Birdy® 3in1」（バーディ スリーインワン）、缶コーヒー「Birdy®」（バーディ）等の飲料の売上げは前年同期を上回り、即席麺は順調に売上げを伸ばしました。

<加工用うま味調味料>

国内では、核酸は一昨年の震災の影響により落ち込んだ販売数量が回復し、順調に売上げが伸長しましたが、食品加工向け「味の素®」は販売価格を引き上げたものの販売数量が減少したことにより、前年同期の売上げを下回りました。海外では、核酸はアジアを中心に販売数量が増加し、売上げは前年同期を大きく上回りましたが、食品加工向け「味の素®」は、為替の影響に加え、競合会社の輸出増加で販売数量が減少した影響により、前年同期の売上げを下回りました。

(バイオ・ファイン事業)

バイオ・ファイン事業の売上高は、前年同期を5億円上回る1,463億円（前年同期比100.3%）、営業利益は、前年同期を19億円上回る113億円（前年同期比120.9%）となりました。

<飼料用アミノ酸>

為替の影響を受けるとともに、リジン、スレオニン、トリプトファンともに販売価格は前年同期を下回りましたが、リジンの販売数量が前年同期を上回り、スレオニンおよびトリプトファンの販売数量が前年同期を大幅に上回ったため、全体として売上げは前年同期を上回りました。

<医薬用・食品用アミノ酸>

海外では、為替の影響等により欧州での売上げが前年同期をやや下回りましたが、北米では好調に推移し、国内でも前年同期をやや上回ったため、全体としても前年同期を上回りました。

<甘味料>

国内における家庭用・外食市場向けの低カロリー甘味料の売上げは堅調に推移しましたが、加工用の甘味料アスパルテームは、欧米を中心とした市場の冷え込み等で販売数量が前年同期を下回り、為替の影響も受け前年同期の売上げを下回りました。南米におけるアスパルテームを使用した粉末ジュース「Refresco MID®」（リフレスコミッド）等の現地通貨ベースでの販売金額は順調に推移したものの、為替の影響を受け、売上げは前年同期を下回りました。

<医薬中間体>

為替の影響等で欧州での売上げが前年同期を下回り、全体としても前年同期を下回りました。

<化成品>

化粧品原料の売上げは、国内、海外とも前年同期をやや下回りましたが、アミノ酸化粧品「Jino®」（ジーノ）は、前年同期を上回りました。コンピュータ用の層間絶縁フィルムの売上げは、前年同期をわずかに上回りました。

## （医薬事業）

医薬事業の売上高は前年同期を51億円下回る558億円（前年同期比91.5%）、営業利益は前年同期を23億円下回る46億円（前年同期比66.1%）となりました。自社販売製品の売上げは薬価改定の影響を受けつつも、新たに導入した製品の寄与もあり、前年同期をわずかに上回りましたが、提携販売品については薬価改定、競合品の影響およびロイヤルティ収入の減少等により前年同期を大きく下回り、全体としても前年同期を下回りました。営業利益も売上げが減少したため、前年同期を大幅に下回りました。

自社販売製品では、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト®」の売上げは前年同期並みとなりましたが、電解質輸液「ソリタ®-T」等の輸液類および成分栄養剤「エレンタール®」は前年同期を下回りました。

提携販売品では、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類の売上げは前年同期を上回りましたが、骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドロネート類およびカルシウム拮抗降圧剤「アテレック®」等のシルニジピン類の売上げは前年同期を大幅に下回りました。

## （提携事業）

提携事業の売上高は、前年同期を29億円下回る1,380億円（前年同期比97.9%）、営業利益は、前年同期を7百万円下回る12億円（前年同期比99.5%）となりました。

## ＜油脂＞

販売数量は前年同期並みの実績を確保したものの、販売価格が下がったこと等により、前年同期の売上げを下回りました。

## ＜コーヒー＞

売上げは前年同期をわずかに下回りました。

## （その他）

その他事業の売上高は、前年同期を1億円下回る535億円（前年同期比99.8%）となり、8億円の営業損失となりました。

## （2）連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、前期末の1兆970億円に対して543億円減少し、1兆427億円となりました。これは主として、株式譲渡によりカルピス社を連結の範囲から除外したため、資産が減少したことによるものです。

負債残高は、前期末の4,468億円に対して640億円減少し、3,828億円となりました。これは主として、味の素厚生年金基金における、厚生年金基金代行部分の過去分の返上により、退職給付引当金が減少したことやカルピス社を連結の範囲から除外したことによるものです。また、有利子負債残高は、前期末に対して96億円減少し、1,204億円となりました。

純資産は、自己株式の取得があった一方、利益剰余金の増加や為替換算調整勘定の変動等から、前期末に対して96億円増加しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は、6,102億円となり、自己資本比率は58.5%となりました。

## （3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年11月5日に公表しました業績予想の修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、当社の特定子会社であるカルピス社の全株式を、平成24年10月1日付で譲渡いたしました。これに伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結の範囲から除外しております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 減価償却方法の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	149,913	164,564
受取手形及び売掛金	206,952	205,079
有価証券	414	572
商品及び製品	96,855	100,349
仕掛品	7,960	7,455
原材料及び貯蔵品	42,842	47,104
繰延税金資産	8,329	9,803
その他	30,282	34,290
貸倒引当金	△1,173	△948
流動資産合計	542,375	568,272
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	350,782	329,415
減価償却累計額及び減損損失累計額	△213,132	△206,008
建物及び構築物（純額）	137,649	123,406
機械装置及び運搬具	508,031	495,231
減価償却累計額及び減損損失累計額	△392,678	△381,958
機械装置及び運搬具（純額）	115,352	113,272
土地	96,139	50,836
建設仮勘定	26,598	31,578
その他	71,837	70,602
減価償却累計額及び減損損失累計額	△58,893	△58,884
その他（純額）	12,944	11,718
有形固定資産合計	388,683	330,812
無形固定資産		
のれん	25,080	4,918
その他	34,107	32,417
無形固定資産合計	59,188	37,335
投資その他の資産		
投資有価証券	84,491	86,599
長期貸付金	1,057	589
繰延税金資産	7,796	7,752
その他	14,723	12,282
貸倒引当金	△789	△329
投資損失引当金	△470	△598
投資その他の資産合計	106,808	106,296
固定資産合計	554,681	474,444
資産合計	1,097,057	1,042,716



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,965	112,174
短期借入金	17,790	12,322
1年内償還予定の社債	—	20,000
1年内返済予定の長期借入金	4,406	3,640
未払法人税等	9,465	20,438
賞与引当金	6,896	2,989
役員賞与引当金	357	207
その他	87,572	64,118
流動負債合計	239,455	235,891
固定負債		
社債	69,990	49,991
長期借入金	34,847	32,150
繰延税金負債	14,786	11,935
退職給付引当金	62,962	29,589
役員退職慰労引当金	1,016	504
環境対策引当金	506	352
資産除去債務	584	586
その他	22,747	21,858
固定負債合計	207,442	146,968
負債合計	446,897	382,859
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	162,381	162,382
利益剰余金	444,728	488,585
自己株式	△2,219	△51,566
株主資本合計	684,755	679,264
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,678	4,817
繰延ヘッジ損益	△1	87
為替換算調整勘定	△81,603	△73,388
在外子会社の年金負債調整額	△478	△504
その他の包括利益累計額合計	△79,405	△68,988
少数株主持分	44,809	49,580
純資産合計	650,159	659,857
負債純資産合計	1,097,057	1,042,716

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	913,936	890,692
売上原価	601,307	591,394
売上総利益	312,629	299,298
販売費及び一般管理費	245,763	238,367
営業利益	66,865	60,931
営業外収益		
受取利息	1,354	1,198
受取配当金	942	951
持分法による投資利益	2,042	2,702
その他	2,408	2,317
営業外収益合計	6,748	7,169
営業外費用		
支払利息	1,658	1,479
その他	2,003	855
営業外費用合計	3,662	2,334
経常利益	69,951	65,766
特別利益		
関係会社株式売却益	—	18,201
厚生年金基金代行返上益	—	27,752
その他	4,075	2,361
特別利益合計	4,075	48,315
特別損失		
減損損失	473	7,312
投資有価証券評価損	758	2,225
その他	5,872	2,265
特別損失合計	7,103	11,802
税金等調整前四半期純利益	66,923	102,279
法人税等	20,437	42,767
少数株主損益調整前四半期純利益	46,486	59,511
少数株主利益	4,490	5,063
四半期純利益	41,995	54,447

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	46,486	59,511
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,084	2,079
繰延ヘッジ損益	4	3
為替換算調整勘定	△37,449	10,231
在外子会社の年金負債調整額	54	△25
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,254	25
その他の包括利益合計	△39,729	12,312
四半期包括利益	6,756	71,824
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,060	64,864
少数株主に係る四半期包括利益	696	6,959

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年5月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により平成24年5月9日から平成24年12月31日までに普通株式43,247,000株、49,152百万円の取得を行いました。

## (5) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	339,654	172,667	145,848	61,043	141,049	53,673	—	913,936
セグメント間の内部売上高	3,862	5,307	4,195	77	251	49,247	△62,943	—
計	343,517	177,974	150,044	61,121	141,300	102,920	△62,943	913,936
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	31,287	18,012	9,369	6,986	1,237	△27	—	66,865

(注) 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

## 2. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	613,619	149,338	87,285	63,693	913,936
連結売上高に占める比率	67.1%	16.3%	9.6%	7.0%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注2)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品 (注1)	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	321,492	175,331	146,352	55,885	138,091	53,539	—	890,692
セグメント間の内部売上高	4,978	4,874	5,119	70	203	40,461	△55,708	—
計	326,471	180,205	151,472	55,955	138,295	94,000	△55,708	890,692
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	29,181	15,431	11,325	4,617	1,230	△855	—	60,931

(注) 1. 当第3四半期連結会計期間において、「国内食品」に含まれていたカルピス社の株式を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外しております。これによる資産の減少額につきましては、P. 13「(6) 企業結合等関係、5. 実施した会計処理の概要、②分離した事業に係る資産および負債の帳簿価額ならびにその主な内容」をご参照ください。

(注) 2. 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

## 2. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	584,696	152,427	88,896	64,672	890,692
連結売上高に占める比率	65.6%	17.1%	10.0%	7.3%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「医薬」セグメントにおいて、医薬品製造設備等の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては7,280百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

カルピス社の全株式を譲渡したことに伴い、当第3四半期連結会計より同社を連結の範囲から除外しております。これにより、「国内食品」セグメントにおいて、のれんの額が18,040百万円減少しております。

## （参考情報）

## 所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

（単位：百万円）

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	630,404	133,124	86,059	64,348	913,936
営業利益	37,588	17,672	6,900	4,704	66,865

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

（単位：百万円）

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	602,192	139,552	84,555	64,391	890,692
営業利益	33,161	16,640	7,861	3,268	60,931

（注）1. 国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

（注）2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国

## （6）企業結合等関係

当社は、平成24年5月8日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるカルピス株式会社（開示内閣府令第19条第10項に定める特定子会社に該当。以下、カルピス社）の全株式をアサヒグループホールディングス株式会社（以下、アサヒGH社）に譲渡することを決議し、同日付けで同社との間で株式譲渡契約書を締結しました。

本契約に基づき、当社は、平成24年10月1日に、当社が保有するカルピス社の全株式をアサヒGH社へ譲渡しました。

## 1. 株式譲渡の理由

当社は、2011－2013年中期経営計画において、コア事業領域である「調味料・食品」と「先端バイオ・ファイン」関連に経営資源を集中し、事業の「成長と構造強化」を推進し、「確かなグローバルカンパニー」になることに向かっていきます。

カルピス社は、1917年に設立され、「カルピス®」に代表される日本初の乳酸菌飲料を基軸とした事業展開を行っております。

当社は、1990年に、カルピス社の筆頭株主となり、2007年10月に同社の発行済み株式の100%を取得し経営統合をおこない、飲料事業の海外展開の加速、調達・物流等の機能部門のシナジーを図りながら業容を拡大してまいりました。

このような中、当社は、2012年1月アサヒGH社からカルピス社株式譲渡についての正式提案を受け検討に入りました。

アサヒGH社は、飲料事業をグループの中核事業として成長を図り、その中でカルピス社を重要な柱として拡大させたいとし、また同社の90年以上にわたる企業文化、「カルピス®」ブランド、乳酸菌・微生物活用技術、そして人材を高く評価しております。更には、カルピス社はかねてより、アサヒGH社傘下のアサヒ飲料株式会社と自販機飲料事業を共同で行っており、相互の信頼関係を築いてきております。

この様な背景を踏まえ、当社は、アサヒGH社へのカルピス社株式譲渡が、当社のコア事業に集中する経営計画の実現と、カルピス社の更なる長期的成長に合致すると判断し、同社の株式を譲渡することと致しました。

## 2. 当該会社の概要

- |           |  |
|-----------|--|
| ① 会社名     | カルピス株式会社   |
| ② 発行済株式総数 | 73,936,871株  |
| ③ 事業内容    | 飲料、健康機能性飲料・食品、乳製品、酒類、飼料添加物等の製造及び販売<br>ならびにその他の事業活動 |

## 3. 当社と当該会社の取引の概要

当社による当該会社の製品の購入及び販売、当社による当該会社の原材料の共同購入及び供給

## 4. 当該会社株式譲渡の概要

- |            |   |
|------------|---|
| ① 株式譲渡日    | 平成24年10月1日  |
| ② 譲渡株式数    | 73,936,871株(保有全株式)                                    |
| ③ 譲渡価額     | 1,217億円 (*)   |
|            | (*) 当該金額は平成24年9月にカルピス社が当社に対して行なった剰余金の配当270億円を含んでおります。 |
| ④ 譲渡後の持分比率 | —%  |

## 5. 実施した会計処理の概要

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| ① 譲渡損益の金額                         |         |
| 関係会社株式売却益                         | 175億円   |
| ② 分離した事業に係る資産および負債の帳簿価額ならびにその主な内容 |         |
| 流動資産                              | 224億円   |
| 固定資産                              | 861億円   |
| 資産合計                              | 1,086億円 |
| 流動負債                              | 293億円   |
| 固定負債                              | 173億円   |
| 負債合計                              | 466億円   |

## 6. セグメント情報の開示において当該会社が含まれる区分の名称

国内食品事業

## 7. 当第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に計上されている当該会社の事業に係る損益の概算額

売上高	593億円
営業利益	47億円